

当クリニックでは睡眠時無呼吸外来を開設しています。

睡眠時無呼吸症候群に罹患していると、良質な睡眠がとれず、日中の眠気や集中力の低下はもちろん、放置しておくと脳出血や脳梗塞などの脳疾患、虚血性心疾患や糖尿病などの生活習慣病を高率に合併し、生命予後に影響を与えます。

当クリニックでは、脳出血や脳梗塞の発症原因となる睡眠時無呼吸症候群の診断・治療を行っています。

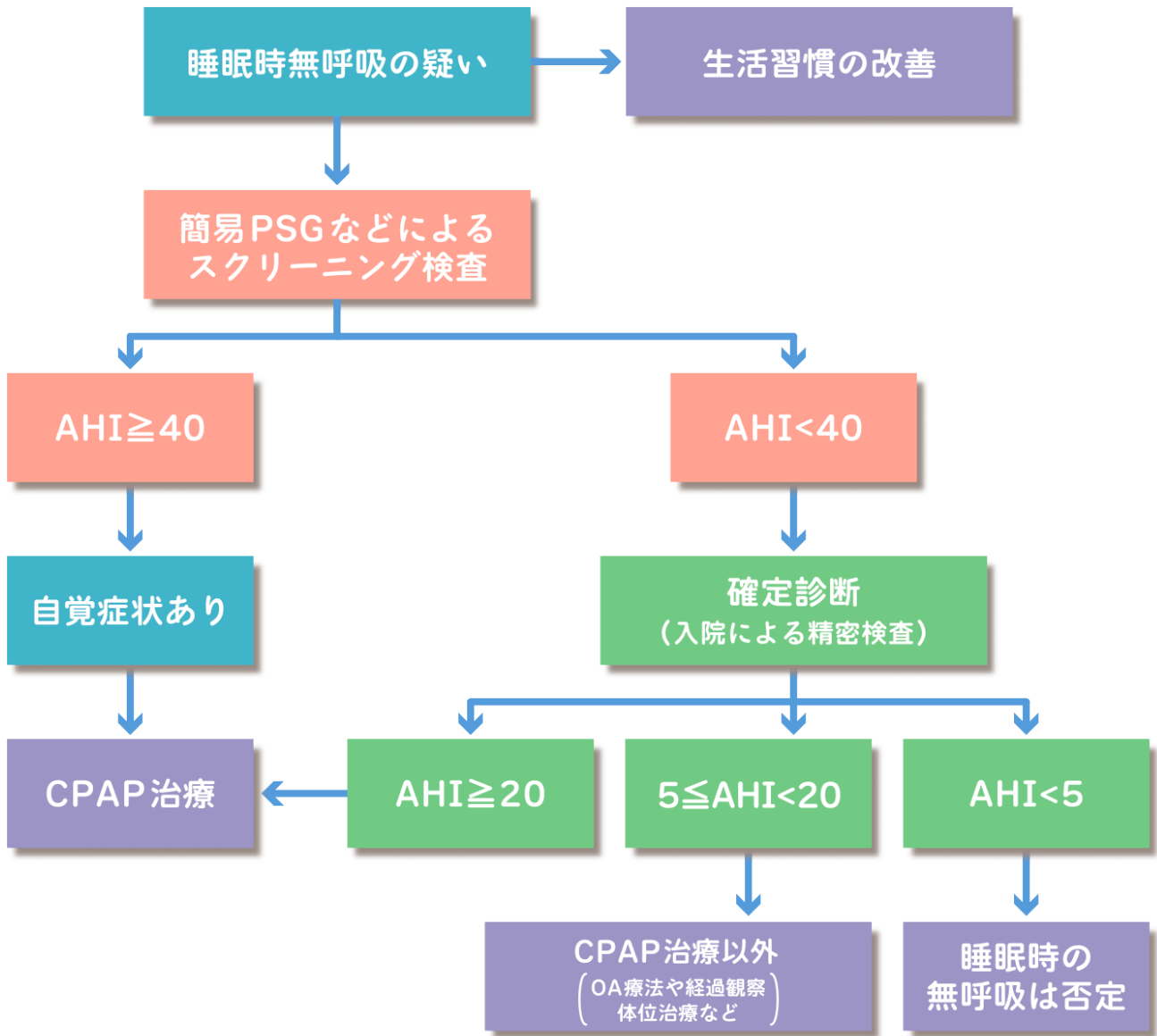
【睡眠時無呼吸症候群（SAS）とは】

睡眠時無呼吸症候群（Sleep Apnea Syndrome）は、睡眠中に無呼吸状態が繰り返される病気です。つまり、眠っている間に呼吸が止まっている状態のことをいいます。医学的には、10秒以上の気流停止（気道の空気が止まった状態）を無呼吸とし、無呼吸が一晚（7時間の睡眠中）に30回以上、もしくは1時間あたり5回以上あれば、睡眠時無呼吸症候群と診断します。しかし、寝ている間の無呼吸に対して自分ではなかなか気付くことができないために、検査・治療を受けていない多くの潜在患者がいると推計されています。



【睡眠時無呼吸症候群の診断・治療】

睡眠時無呼吸症候群の診断は、患者さんの自覚症状、家族などによる患者さんの睡眠中の状態や合併している病気などをチェックしたうえで、スクリーニング検査、精密検査を行います。



・簡易 PSG 検査

血液中の酸素飽和度、気流、いびきを測定する機器を装着した状態で眠り、気道が狭くなっていないか、呼吸が止まっていないかといった睡眠中の呼吸状態を検査します。操作、装着が簡単な機器を使用するので、自宅で検査することができます。

・ AHI

AHI (Apnea Hyponea Index) は無呼吸低呼吸指数といい、時間当たりの無呼吸 (Apnea) と低呼吸 (Hyponea) を合わせた回数をいいます。

この数値によって、治療法が決定されます。

・ 確定診断 (入院による精密検査)

睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の確定診断は、終夜睡眠ポリソムノグラフィー検査 (PSG) によって行われます。PSG は睡眠中の脳波、眼球やあごの筋肉の動き、心電図、鼻に入る空気の流れ、呼吸の状態、酸素飽和度など多くの項目をモニタリングできる検査装置です。入院は1泊2日で夕方に入院していただき、翌日退院となります。

・ CPAP 治療

CPAP 療法の原理は、寝ている間の無呼吸を防ぐために気道に空気を送り続けて気道を開存させておくというもので、CPAP 装置からエアチューブを伝い、鼻に装着したマスクから気道へと空気が送り込まれます。



CPAP 装置などの機器は保険診療で貸与されます。

当クリニックでは月曜日を専門外来日としておりますが、他の曜日でも受け付けていますので、何なりとご相談ください。

また、睡眠時無呼吸症候群の患者さんは、脳疾患のリスクも高いので、現状の脳の血管状態を把握するためにも、並行して「脳ドック」を受けられることをお勧めします。